



すずしろ

～開拓・発展・完成～

12月 第8号

令和5年12月25日

開進第四中学校だより

校長 田邊克宣

『 走りゆく兔に 』

ようやく冬らしい寒さが訪れ、身も心も引き締まります。この一年、開四中生は脱兎のごとく走りきりました。感染症対策が個人判断に委ねられた今年度、何度か迎えた危機をその都度乗り越え、大きな行事をことごとく成功させ、主体的に取り組んだ生徒諸君は一回りも二回りも成長し、顔つきも4月当初に比べてだいぶ大人びてきました。ご家庭ではその変化にお気づきでしょうか。ごく身近にいるとつい見過ごしてしまいがちですが、ぜひ一度、お子様の顔をしげしげと眺めてみてください。確かな成長の跡がきっと見られるはずです。

さて、今年度は学校としても大きな変革を遂げた年です。

まず、生徒の意見をきっかけとして「学校のきまり」の見直しを行いました。夏の標準服のベスト着用に関して行った改訂には、生徒、保護者共に賛同の意見を多くいただきました。それを契機として、次年度の標準服についてもよりよい方向を目指し、舵をきった次第です。

「きまり」は自分たちを守るためにあるもの。それゆえ、軽々しく変えることはしないと、生徒たちには話しております。それを変えることの意義を考え、自分たちでしっかりと討議できる力をもっている開四中生には、今後さらなる発展に向けて、より積極的に、より深く学校生活に臨むことを期待しています。

これまで多くの先輩たちが培ってきた伝統を受け継ぎ、後期生徒会役員・専門委員を筆頭に、一人一人が主体的に、意欲的な活動を展開しています。自分たちのことは自分たちでやるという、中学校時代の自治活動が、やがて社会に出たときに必要な生きる力を培っていきます。世界を見渡せば、気候変動や戦争等々、心配事もたくさんあります。だからこそ、今できること、やるべきことにきちんと向き合えるこの平穏を大事に、忘れずに、日々をしっかりと生きてほしいと願います。

年が明ければすぐにスキー移動教室、百人一首大会、そして受験の天王山を迎えます。この冬、ご家庭でゆっくり過ごす時を大切にしながら、くれぐれも感染症対策は忘れないでください。始業式に、生徒全員が笑顔で登校してくることを心待ちにしております。

家庭、地域、学校の三者がそれぞれの視点と役割から関わっていく中で、開四中生は地域の子として豊かな成長を遂げています。保護者ならびに地域の皆様の、この一年の多大なるご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

どうぞよい年をお迎えください。